

# たからぎ通信

## 創刊号



発行日：2016年9月15日



### 創刊にあたり



村井クリニック  
院長 村井 邦彦

私たちはいま、少子高齢化と社会保障費抑制の待ったなしの状況に追い込まれています。そんな中で求められるのは住民主体の生活支援と介護予防です。すなわち、ある意味で江戸時代に立ち戻るかのような、地縁社会の復活と、医療に依存しない自立した市民意識が求められます。住民全体の意識の変容には時間がかかることでしょう。また、地域包括ケアシステムの構築には医療・介護連携も求められていますが、これも簡単ではありません。こつこつと実績を積みだ結果でしか実現できません。

私たちは、地域の医療・介護従事者の皆様と連携し、地域づくりのための様々な取り組みを始めています。地域連携推進室を設置し、医療介護の窓口機能を強化しました。外来の三科（整形外科・内科・ペインクリニック）では、地域との多職種連携を重視しながら、生活の質・尊厳ある人生に視点を置いて診療を行っています。リハビリ部門では従来の身体的リハビリテーションに加え、がんのリハビリテーション、言語聴覚士による食支援・コミュニケーション支援の充実を開始し、歯科との連携、病診連携によって地域向けに食支援チームを送り出しました。今後一層重要になる訪問診療は、病院の医師を招聘して経験を積んで頂くと共に、地域における在宅医療の供給量アップを目指してシステムを整えています。そして、社会貢献活動として「地域包括ケア研究会」を立ち上げ、キャラバン形式で市内各地に出て住民・自治会向けの勉強会を開催していく計画です。まだまだ書きたいことはたくさんあ

### 「食べる」ことは難しい？ 寺子屋わーく



医療と介護の連携を強固にしていくために始まったホームヘルスケアアタウンのつのみやも産声を上げて早1年。8月は歯科衛生士の手塚由美子氏を講師に迎え「嚥下について学ぼう、話そう、体験しよう」というテーマで、「食べる」とことはどういうことかを学びました。



夏の盛り7月末の土日に、地域での暮らしを支える勉強会、在宅緩和ケアとちぎの夏季講習会のお手伝いをしました。



山梨市立牧丘病院より古谷聡さん、目白大学の専任講師佐藤彰絨さんから「食べる」ことの支援に関する講演を頂きました。

### 在宅緩和ケア 夏合宿

災害時の支援を取り上げて、「食べる」ことの支援に関する講演を頂きました。で、「平時の時にできない支援を、緊急時にはできません」という言葉が印象的でした。平時の時だからこそ「食べる」という一見当たり前のことについて見つめなおす機会になりました。支援の在り方を考えることができました。



谷 勇樹

るのですが、紙面の都合であまり詳しく書けません。次号以降でひとつひとつの事業について詳しくお伝えしてゆきたいと思えます。クリニックの取り組みに対し、皆様にご興味を持って頂き、ご指導を頂けたら幸いです。

### 新入職員紹介



内科医  
もの忘れ外来  
川島有実子



副院長  
整形外科医  
森山一郎

7月より整形外科外来を担当しています。整形外科関連の一般を診ていきますので、お願いいたします。

看護師 古森愛茄  
言語聴覚士 駒場夏樹  
社会福祉士 鈴木隆浩

### 編集後記

地域をつくるためには、何が必要なのか。介護、医療はもとより、地域で何が起きているか、課題がどこにあるのかを考えていかなくてはなりません。そのためには確かな情報が必要となります。良質の情報を得るために、この広報誌が生活の一助となれたら幸いです。

### リレーフォーライフ 2016 とちぎ 9月24日~25日 壬生総合運動公園

がん患者やそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動です。がんの告知を乗り越え、生きていく事を祝福し、旅立った愛する人達を偲び、がんを負けない社会を作ることを目指します。



鈴木 隆浩

MURAI CLINIC  
村井クリニック

〒320-0061  
栃木県宇都宮市宝木町 1-2589  
TEL:028-621-1541  
FAX:028-621-1514  
http://www.murai-opc.org/